

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 広島市立古田中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒733-0874
広島市西区古田西町27番-1号

E-mail : huruta-j@e.city.hiroshima.jp

Website : http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=j1043

児童生徒数：男子 446名 女子 421名 合計 876名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 本校活動の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

①研究テーマ

ESDの学校教育に関する実践的研究(5年次)

－みんなが幸せで平和な社会への志向－

②研究のねらい

現代の社会や世界には、広範多岐にわたる地球規模的な諸課題が存在しており、持続可能な(=本校では「よりよい」と定義)社会・世界の構築が今、求められている。このような中、本校が学校教育の柱としてESDを導入した理由は、これからの教育(学習指導要領)の方向性、本校生徒の実態、地域のリソースと本校国際交流の流れからである。本校の「ESDのねらい」は、『「みんなが幸せで平和な社会」を実現するために、何ができるか、何をすべきかを自ら考え、行動できる人材(力・担い手)を育てる。』である。

そして、ねらいを達成するために必要不可欠な力として、「思考力」、「判断力」、「表現力」、「コミュニケーション力」、「実行力」を育成すべき5つの力として、併せて設定した。

(2) 研究内容

本校では、本研究に対し、ESDを教育活動全体を通して、全教職員で取り組むことを確認し、教育課程を表した「ESDシステムマップ」を作成した。

このESDシステムマップは、「本校ESDの趣旨とねらい」、「つきたい5つの力」、及び「各教科・領域における関連事項」から構成されている。

各教科・領域においては、ESD推進に対して探究的・横断的・総合的な学習を担保するため、主として総合的な学習の時間では「探究と発信」に、各教科では総合的な学習の時間に対する「知の総合化」、広島特区(「ひろしま型カリキュラム」)教科である言語・数理運用科では「思考力・判断力・表現力の育成」、そして道徳では「心との統合」、特別活動では「活動との統合」に焦点を当て、相互につながりかわり合った教育実践が図られるよう示している。

さらに、各教科・領域間で、より相互に「つながりかわり合った」実践が行えるよう、全教科・領域に係るESDの「内容」を一覧にしたものが、「ESDカレンダー」である。

具体像としては、各教科や言語・数理運用科、道徳では「題材名」を中心に、総合的な学習の時間や特別活動では「活動名」を中心として、月毎の時間軸で学年毎に示したものであり、全教職員及び指導者間で連携し合って実践を積み重ねていくこととした。

ESDカレンダーはすべてを網羅し表しているもので、昨年度新たに、それを「総合的な学習の時間」の主題ごとに、整理し、焦点化して、ESDクロスカリキュラムを作成した。本年度は、統一主題、「平和」で、クロスカリキュラムをまとめ、各教科・領域のつながりが見やすくなっている。

2 授業実践

(1)「総合的な学習の時間」

本校のESDは、総合的な学習の時間を中心に展開している。

それは、総合的な学習の時間が「探究的・協同的な活動」を通して「問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度」を育て、「自己の生き方を考えることができる

ようにする」時間であり、まさにESD推進の要となるからである。本年度は、この時間の全体計画のもと、各学年の主題及び時数を次のように実践した。

第1学年:「平和とは?社会とは?自分とは?～気づく～」(15時間)

第2学年:「平和について考えを共有する～かかわる～」(35時間)

第3学年:「平和な社会の実現のための提言を発信しよう～未来へ向けて動く～」(35時間)

特に学習過程においては、探究活動としての「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の過程を一連的に行っていくとともに、ゴールの姿を明確に見通し、最終的な表現段階において、行動化に向けた主張が「提言」としてまとめられていること、その提言には「根拠と理由」が明確であることを主眼に学習指導を進めていった。また、課題の設定の段階から発信・交流の段階までの全過程において、ゲストティーチャーの協力を仰ぐとともに、修学旅行先でのアジアの留学生とのディスカッションも取り入れた。

①「総合的な学習の時間」計画

○「総合的な学習の時間」の目標

平和をテーマとした横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、国際社会における様々な問題と自らの日常生活や身近な社会を結びつけて課題を見つけ出し、よりよく解決する資質や能力を養うとともに、主体的、協同的に取り組む態度を身に付け、自己の生き方を考えることができるようにする。

○育てようとする資質や能力及び態度

- ・現代社会の多様な課題の中から、自分が着目する課題を見つけ出す。
- ・課題解決に向けて、提言を行動にうつすことができる。
- ・自己の将来について、夢や展望を持ち、生き方を考えていくことができる。
- ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する。
- ・お互いの特性を生かし、協同して課題を解決する。
- ・持続可能な社会の構築のために、自分に何ができるか考え、社会貢献しようとする態度を身につける。

②「こどもオリエンテーション」～校内での活動(発信→行動)～

○「総合的な学習の時間」における異学年集団での交流(第1時)

1・2年生の最初の総合的な学習の時間は、「こどもオリエンテーション」として、全学年が体育館に入り、3年生によるプレゼン、質問交流会を実施した。先輩から下級生に「総合的な学習の時間」の学習方法や内容について伝えるオリエンテーションを通して、下級生にとっては目指す姿、自分の将来の姿を明らかにし、3年生にとってはこれまでの学習の振り返り、自分の良さを自覚する機会とする。また、未来に生きる世代同士で「つながり」をもって共に学習することで、他者と共に課題を解決しようとする意欲の向上や表現力・実践力の向上を図った。

③「このまちにくだしたいプロジェクト」～地域との活動(発信→行動)～

○地域社会との交流活動(月1回・希望者)

古田公民館、及び「ふるた多世代寺子屋」と連携し、大人とこどもの多世代で交流する「このまちにくだしたいプロジェクト」を立ち上げ、どうしたら私たちの住む地域がより住みよい幸せな地域となるか、一緒に考え、行動する。大人と子どもが一緒になって、この古田のまちについてのワークショップを通じて、まちの課題を探り、目指すべき将来像を考えている。参加希望者を生徒から募り、月1回、土曜日か日曜

日に、古田公民館か「古田のおうち」で活動を行う。地域との活動として、「総合的な学習の時間」からつながった行動化の一つであるといえる。

(2)各教科・領域による横断性・総合性

①各教科

E S Dで目指す各教科に係る目標は、「知の総合化」である。教科指導の主たる目的を「内容論」と定義し、「授業のねらいを確実に達成することがE S Dにつながる」という認識を共有し、実践してきた。それは、学習指導要領の示す内容そのものがE S Dに向かっていると考えるからである。

そのうえで、私たちは各教科の理念のもと、教科間の内容が横断的につながる授業展開を工夫するとともに、各教科の内容が総合的な学習の時間における探究活動の知的ベースとして相互につながり合うよう留意し、指導展開に努めた。

②言語・数理運用科

言語・数理運用科には、各学年とも、総合的な学習の時間の時数、35時間が充当されている。この教科の特徴は、4時間で構成される各題材に対し、まず題材の課題を明確にし、「必要な情報の取り出し」、「情報の整理と分析」、「まとめと発表」という過程を、繰り返し・巻き返し行うことによって、「思考力、判断力、表現力」といった能力そのものを育成することにある。私たちは、本教科の特徴を生かし、その目的を達成すべく、実践を行っていった。

なお、本教科で培う能力は、総合的な学習の時間の探究活動とともに、各教科の思考力・判断力・表現力の育成にも、横断的につながっている。

③道徳

道徳の授業においては、まさにE S Dに係る「心との統合」である。道徳での4内容は「自分自身とのかかわり」、「他の人とのかかわり」、「自然や崇高なものとかかわり」、「集団や社会とかかわり」であり、その中に、人としての生き方が問われる題材が数多く用意されている。「みんなが幸せで平和な社会」を実現していく本校E S Dにとって、その基となる道徳性や道徳的価値観、実践力が培われていなければならないものである。

④特別活動

特別活動は、「活動の統合」と定義し、生徒会活動と学級活動、学校行事との関連を図った。

(学級活動)

学級活動の目標は、「～、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。」(学習指導要領より)であり、E S Dとの関連上、内容のうち、「学級や学校における生活上の諸課題」を中心に、学校生活の中での「持続可能性」や、「みんなの幸せと「平和」(＝「すべての人が、日常的に、安全で安心して暮らせる社会」と定義)に向けた、身近な活動の場として意識し、指導してきた。

(生徒会活動)

生徒会活動では、他校との平和に係る交流とともに、次のような活動を行った。

- ・「原爆の子の像」碑前祭参加
- ・平和行進ボランティア参加
- ・広島土砂災害支援募金
- ・年末ユニセフ募金

(学校行事)

学校行事においては、特に焦点を当てて実施しているのが第2学年での修学旅行である。10月に大分を訪れる修学旅行のメインは、「農村民泊」と大分にある大学(A.P.U)のアジア留学生との「交流とディスカッション」である。4年前よりAPU留学生との交流が始まり、4年間はテーマを変えながらも、同様の提言発信、交流の場となっている。

学校行事では、その他の行事においても、ESDとの関連が図られるとの認識のもと、実施している。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()